

全溶連参加団体 各位

溶解アセチレン容器取扱説明書発行について ～容器取扱いの周知と事故防止の注意喚起～

このたび、2012年に発行されました「バルブ付き継ぎ目なし高圧ガス容器の取扱説明書」に続き、「溶解アセチレン容器取扱説明書」を全溶連保安委員会において編纂し、発行いたしました。業界ではご了解のことですが、継ぎ目なし容器と違い特殊な構造を持つとともに、被害の多大な高圧ガス事故を発生させるアセチレンは、現在でも高圧ガス保安の重要項目といえます。全溶連保安委員会では、継ぎ目なし容器の取説発行以来、アセチレン容器メーカーの協力を得ながら、本書の発行に取り組んでまいり、2015年4月ようやく発行にこぎつけました。



その矢先に、2015年2/24秋田の大館で起きた重軽傷者4名（うち1名は3/18死亡されました）の爆発事故を皮切りに、溶接溶断の作業中に愛知でも2/27に1名の重傷者を、北海道では3/18に火災で2名の死亡者（+軽症1名）を出す事故（着火源は不明）が連続して発生しております。これらの事故は、いずれも貯蔵や製造の届出、許可にも満たない、小規模の高圧ガス消費事業所において、高圧ガス（特に溶接溶断用アセチレンガス）の危険性についての認知不足から発生したものと見られています。事故はすべて、いわゆる周知活動の対象事業所で発生しており、いわば現行の周知活動が十分に機能していない、あるいはアセチレンガス等の危険性について、十分な理解が得られていないことを示すものとも危惧されています。



そのため事故発生直後、経済産業省商務流通保安グループ高圧ガス保安室長から、これらの事故の発生状況に鑑み、全溶連メンバーが自主的な活動として取り組める保安活動についての依頼がありました。国内唯一の高圧ガス販売業界団体の全国組織である全溶連としては、高圧ガス保安法に基づく周知義務に加え、本書によってアセチレン等の危険性を、ひろく消費現場に徹底する活動を展開できるということで、溶接、溶断作業を行う事業者への安全管理の徹底、ガスの取扱い方法等について周知し、アセチレン等の事故の防止に貢献することが期待されています。

全溶連各加入団体におかれましては、販売先にあたるアセチレン等の利用事業所のすべてに、最低一冊の配布を行っていただき、社会の期待に応えていただけますよう、新書発行のご案内方々、お願い申し上げます。

